

日野環境チャレンジ 2050 「工場 CO₂ ゼロチャレンジ」への取り組み

小林 武 (こばやし たけし) 日野自動車株式会社 生技開発部 プラント計画グループ セクションリーダー

要約 日野自動車は2017年10月に「日野環境チャレンジ2050」を策定。その中で車をつくる工場では、「日常改善の加速」×「革新技術の導入」×「再生可能エネルギーの活用」により2050年までにCO₂排出量ゼロという非常に高い目標に掲げ、取り組んでいます。古河工場の新設に際しては、自然エネルギーを積極的に活用した工場づくり、また、既存工場での改善活動によって得られた経験、ノウハウをベースに、ヒートポンプを中心とした熱源システムを構築し、蒸気レス工場を実現しました。本稿ではそれらの具体的な取り組み事例について紹介する。

1. はじめに

2017年10月、日野自動車は将来の持続可能な社会の構築に貢献すべく、新たな長期目標として「日野環境チャレンジ2050」を策定しました。日野自動車はこれまで「人、そして物の移動を支え、豊かで住みよい世界と未来に貢献する」を会社の使命に掲げ、世界中のお客様のニーズに適したトラック・バスを提供することで、お客様のビジネスを支え、社会に貢献してきました。



図1 日野環境チャレンジ 2050

「日野環境チャレンジ2050」では、地球温暖化、水不足、資源枯渇、自然破壊といったさまざまな地球環境問題に対して、トラック・バス専門メーカーとして

日野グループが成し遂げるべき6つのチャレンジとして掲げたものです(図1)。本稿では、6つのチャレンジのなかの1つ、「工場CO₂ゼロチャレンジ」について、この非常に高い目標を実現するためのこれまでの取り組みについて紹介する。

2. 工場CO₂ゼロチャレンジ

日野環境チャレンジ2050の6つのチャレンジのなかの1つ、「工場CO₂ゼロチャレンジ」では、工場車両をつくる過程でのCO₂排出量ゼロを目指し、3つの取り組みを進めていきます。



図2 工場CO₂チャレンジの3つの取り組み

1つ目は、日頃取り組んでいる日常改善を加速させる。工程に潜むムリ・ムダ・ムラを徹底的に撲滅し、そこにかかる加工時間、工程数、加工ライン長などを削減することで、工程の「シンプル化」、「スリム化」を進める。2つ目は、革新技術の導入です。IoT技術